

## 松本養護学校基本方針検討懇談会

### 第8回発言要旨

#### 1 期 日

○令和3年3月29日(月) 10:00～12:00

#### 2 内容の概要

長野県松本養護学校整備基本方針(案)について意見交換

##### ① 基本的な考え方

・松本養護学校がおかれている状況が簡潔にまとめられている。

##### ② これからの松本養護学校のコンセプト

・基本方針を職員がどう受け止めて、どう実践していくのかが大切。子どもたちは学校に来ることが楽しくなくてはいけない。

・学校職員は専門性を高めたいという思いがある。経験年数、立場などに応じて研修をする必要がある。教職員の研修を進めていくうえで専門性サポートチームが機能し始めている。

・副学籍交流は親の負担が多い。副学籍コーディネーターなど、下支えが必要。強化してほしい。

・近くの農地は余っている。実際に農地を借りてブルーベリーを作るなど実現できるとよい。

・子どもは安心だから学校へ行きたいとなる。学校で培われたものを土台として、福祉で引継ぎ伸ばしていきたい。

・子どもたちが安心して遊び、日常的に交流できる場があることが大切。どうしたら一緒に遊べるか、子ども同士で学べる場になるとよい。

・共生社会、インクルーシブな教育となると、居住地校交流が大切になる。居住地校交流とICTをつなげていく方向性はよい。ICTを用いると、朝の会などで日常的にやりとりする可能性が広がる。

##### ③ コンセプト実現のための施設整備などの取組

・自分の思いが伝えられなかったり、やりとりできないことがストレスになったり、違う方向に向いたりすることがある。きちんと自分の思いを伝えたり、やりとりができたりする環境を確保してほしい。

・教職員の働く環境を整えることも大切。

・地域は交流する人が固定している。長く同じ人が関わることも大切だが、そもそも松本養護学校と地域が交流していることを知らない人も多い。地域の方が、自分も関わりたいと思わせる営みが大切になってくる。

・保護者の縦のつながりがほしい。先輩の話を聞きたい。

・地元の学校も「いずれは戻っておいで」と発信できる学校になってほしい。特別支援学校で力をつけ、地元に戻る、という事例もある。

##### ④ 施設整備の方向性、今後の進め方

・地域連携室は、常に情報連携のキーステーションとなるためにぜひ必要である。

・地域交流スペースは保護者同士が集える空間であってほしい。交流の場にいろいろな機能が期待できる。

・福祉サイドとしても、松本養護学校の場を借りたり、一緒に学ばせてもらえたりするとありがたい。

・知的障がいのある学校ではあるが重複障害の子も増えている。どのような子どもにとっても環境が整った場となり、将来の社会環境のモデルとなるとよい。

・松本養護学校が地域の風景となり、学校があることが地域の方の誇りとなるとよい。

・遊具がほとんど使えない状況。作ったからよいではなく、作ったものを上手に使っていくことも大切である。